

令和6年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	24660001	トランスジェニック生物学特論	49	30	61	4.35	全て4.2以上の評点であったため、授業の進め方には問題ないと考えている。	最新の話題についても取り込むことを検討する。	
2	24660002	植物生産科学特論	37	14	38	4.05	アンケートの回答率が昨年度より向上しており、担当教員の工夫が奏功した。 共通項目の評価はいずれも科目群平均と同様の傾向でそれらをわずかに下回る値となっており、秀でた項目が無い。このことは、授業内容は概ね平均的な質がある程度は維持しているものの、独自性を発揮するには至らなかったことを示唆する。 当該授業は農業生物科学教育コースの必修科目として植物、動物、微生物に関する農学・生命科学の様々な学術領域の大学院生が受講するので、受講者が広範な事象に知的好奇心を向けることができるように「主体的学修」および「学修意欲」の項目の評価が高くなるよう意図した授業に努めているところであるが、残念ながらこれら2項目の値が最も低くなっており、こちらの意図を実現することができていない。	来年度は、受講生の多くが当該授業に好感を持って、総じて高く評価するようになることを図る必要がある。併せて、当該授業の独自性を打ち出すような工夫が望まれる。 受講生が当該授業を聴講した結果として、関連する様々な事象に興味を持つように、有益な学術情報を提供することに努めてきたが、これまでの取り組みでは不十分であると考えられることから、これまでと異なる新たなアイデアを構想することが必要不可欠である。 以上の問題点について、分担する教員の間で検討している。	特に無し
3	24660101	動物・水圏資源保全学	41	24	59	4.53	全ての評価が平均以上であった。特に「共-60：学生と教員とのやりとりには双方向性があった」が平均より0.3高く、「共-67：教員の説明はわかりやすかった」が平均より0.4高く、評価が高かったため、双方向且つ、学生の理解の上でも講義の質が担保できたと考える。	全ての評価が平均以上であり、引き続き次年度も同様の内容にて実施していきたい。	
4	24660102	生殖生物学特論	45	21	47	4.20	ほぼ全ての項目の点数が4.0以上であったが、学修マネジメント（学生と教員とのやりとりには双方向性があった）が3.8と低い点数であった。本講義は4人の教員によるオムニバス形式で行われる。講義時間が一人2回分しかないため、構造的に学修マネジメント低くなったものと思われる。	本講義内容には哺乳動物と海洋生物が含まれているため統一性が難しく、学生数も多くなっている。できるだけ学生との関係を強めるよう努める事を担当教員全員の統一意見とする。また、アンケート回収率が46.7%と平均より低かったため、来年度は最終講義者を中心にこれを改善する。	特になし。
5	24660109	水族生理学特論	23	12	52	4.33	全て4.3以上と概ね良好であった。	毎回の授業での学ぶべき重要な目標についてはより明確にするなど、さらなる工夫を検討したい。	
6	24661002	森林資源管理学	16	10	63	4.76	昨年度の反省を踏まえて、教員間で話し合い、講義の一部を演習林で宿泊ゼミと実習で行った。その結果として「学生と教員との双方向性」および「総合的な満足度」が4.9と高くなったと考えられる。	シラバスでの記載が十分でなかったため、次年度は改善をはかる。	
7	24661101	生産環境の科学（E科目）	21	9	43	4.09	満足度としては4.3であったことから、総合的に見て受講生にとって満足できる授業を提供できたと考ええる。ただし、質問項目の評価点は科目群平均と同等もしくは0.1～0.4ポイント低い値であり、質問に対する回答として「どちらとも言えない」もしくは「どちらかと言えばそう思わない」との回答が一人もしくは二人あった。全8回とも担当教員が異なるオムニバス形式を採用したため、担当教員によっては専門分野外ということで分かり難い授業であったり、興味を持っていく内容であったことが要因とも考えられる。	オムニバス形式の良さをもう少し引き出せるような授業計画を立てることが必要と考える。とくに、学生にとって専門分野外の担当教員の授業においても、学修デザイン、学修マネジメント、主体的学修の観点から興味が引き付けられるような授業を構築するように考えたい。	特になし
8	24661102	生産環境データ解析論	18	18	100	4.25	本講義の受講には一定のDXスキル（コンピュータプログラミング、データサイエンス等）を必要とする。このため、難易度に関しては「難しい」と回答する学生が複数名おり、その部分の評価が低くなった。一方、同科目の内容について「重要性を理解している」や「内容に満足している」学生も多く、評価は高かった。	2023年1月からMATLABキャンパスワイドライセンスも導入されたことから、DXスキル向上に向けて内容のブラッシュアップを図りたいと考えている。	回収率を上げるためには、学生のアンケート提出を義務化する仕組みが必要であると感じた。

令和6年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
9	24661103	熱と流れの科学	25	10	40	4.10	満足度の評価点が4.2と相対的に高く、また学修デザインやインストラクションの関する項目への評価も高いことから、受講生にとって満足の行く授業を提供できたと考える。その一方で、授業の難易度、教員との双方向性、学修意欲に関する評価点は3.5程度であった。本科目が専門性の高い数物系科目であり、学生の所属分野によっては空図示も必須的な内容であったことが反映された評価と考える。	本科目は専門性の高い数物系科目であることを踏まえて、動画配信によるオンデマンド型講義を導入し、理解できるまで繰返し学習が可能な講義方式を採用した。そのため、双方向性について評価点が低かったが、難解な数物的な知識の修得を第一義とすることを目的とするため、このスタンスを変更する予定はない。また、授業の難易度と学修意欲についても、自身の修士論文テーマとの関連性だけで評価されるべき項目ではないと考え、授業内容の大幅な変更は考えていない。	特になし
10	24661301	木質の形成と利用	23	7	30	4.39	総じて評価は高く、良好と考える。特に、双方向性と関係分野への学習チャンスには高い評価が得られた。	大きな改善点はなく、新しい情報をアップデートしながら、講義内容を組み立てる	特になし
11	24661302	サステナブル資源科学（E科目）	15	4	27	4.13	本講義はE科目として、日本人を主体とした本講義の受講生（15名）と国際コースの受講生（23名）によって実施された。同じ講義に出席しているにもかかわらず、本講義の受講生からの評価は低く、国際コースの受講生からの評価は高くなっている。また、同様の呼びかけを行っているにもかかわらず、本講義受講生からのアンケート回答率も低い。一方、成績自体には講義間での違いはほとんど無いため、教育効果自体には差がないとも判断される。このことは、本講義の受講生には英語による受講について不満があり、満足度が低くなっていた可能性が考えられる。	日本人学生向けの補講は効果があるかもしれないが、講義日程的に実施は難しいと考えられる。	日本人学生と国際コース学生には受講態度に差があるため、1つの講義内でバランスをとることが難しいことがある。
12	24661311	木質資源学	17	9	53	4.06	担当講義の平均値をみると、科目群の平均と概ね同じような数値を示している。	双方向性のやりとりと授業者の熱意があるか、という問いに対して、「そうは思わない」という意見があったため、授業毎に感想や疑問を聞き、次の授業で疑問に答える双方向性の授業を行いたい。	
13	24663001	生物機能分子化学Ⅰ（E科目）	46	17	37	4.01	シラバスの学習目標、授業の双方向性について評価が低いと感じた。	シラバスの学習目標、授業の双方向性について担当教員間で改善を図る	
14	24663002	生物機能分子化学Ⅱ	20	3	15	4.69	全体的に、昨年度のアンケート結果より評価が向上し、科目群平均を上回っている。特にシラバス、学習目標の明確さ、説明のわかりやすさなどが高評価であった。双方向性については、まだ改善の余地がある。	双方向性を向上させるよう、担当教員グループで意識を共有する。	回答数の増やすよう、さらに学生の協力を求めたい。
15	24663101	システム生物工学特論	28	15	54	4.35	アンケートの集計（53.6%）によると、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」（どちらとも言えない：40%）。 「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」（どちらとも言えない：28.6%）（どちらかと言えばそう思わない：7.1%）と回答する学生がいたため改良する余地があると思われる。	学生自身の好奇心を自ら学ぶ姿勢を尊重し、学生の声に耳を傾けることを大事にしたい。授業中や、また授業後のアンケートを活用し、新しい意見を取り入れて授業を工夫していきたい。	
16	24663103	システム生物化学特論	35	24	69	4.27	全ての項目について概ね4以上であり、各項目は適切であったと評価する。「学修マネジメント：学生と教員とのやりとりには双方向性があった。」と「主体的学修：授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した。」に関しては評価が低かったため、改善すべきであると分析する。	「学修マネジメント」に関して双方向性をさらに授業に取り入れる。「主体的学習」に関して学生が主体的に学習したくなるような授業内容を検討する。	
17	24663104	環境微生物学特論	17	12	71	4.08	双方向性と説明のわかりやすさ以外は4.0以上の評価であり、一定の評価であったが、登録数（17）は受講者数に比べ少ない印象である。	担当教員全員に双方向性と説明のわかりやすさについての改善を依頼する。	
18	24663105	微生物生産工学特論	65	25	39	4.33	全体的には平均的な回答で、難易度も妥当なものであったと考えている。	「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」という項目だけは平均より低かった。これは常に受講者数が多かったため、そのような進め方になってしまったと考えている。次年度以降は、もう少し双方向的な試みを実施したいと考えている。	
19	24663110	細胞機能工学特論	81	45	56	4.38	概して高い評価であったが、学生と教員との双方向性の部分は比較的低い評価であった。	学生と教員との双方向性に重点を置き講義を行うことを心がけたい。	

令和6年度大学院授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
20	24663114	微生物遺伝子資源工学特論	18	15	83	4.27	授業の難易度と説明のわかりやすさが3.9であったが、他の項目は4以上で概ね良好と考えた。	課題の解答を配布して欲しいという要望があったので、次年度以降検討したい。	
21	24663301	食品機能学特論	30	27	90	4.39	十分な評価が得られているものと判断できる。	特になし。	
22	24663303	食品品質学特論（E科目）	31	26	84	4.32	今回の講義ではいずれの評価項目においてもほぼ平均値を示していた。自由記述として、「日本人同士で拙い英語を使っているときもあり、英語の学習としてはいいが、内容の難易度は学部生の授業より低かった気がする。」との意見が見られた。ただ、大学院講義で他コースの学生も受講していたこともあり、基礎的な内容から話す必要があることも否めない。次回以降も引き続き内容については検討する。	前述の通り、ほぼ平均値を示していたことから、次回以降もほぼ同様の内容で行っていく予定である。ただし、基礎的な内容をどこまで話すかは今後検討していく。	特になし。
23	24663306	機機構造解析学特論	11	11	100	4.72	十分満足のいく授業評価を受けているものと思われる。	特になし	
24	24665013	生産環境の科学(国際コース)	24	18	75	4.31	満足度に関するよう評価点は4.3と相対的に高く、また各質問項目の評価も科目群平均点と同等もしくは0.2ほど高いことから、受講生にとって有意義な授業を提供できたと考えられる。特に、「そう思わない」という回答の質問がなかったことから、大きく反省するべき点はあないものとする。	上記の通り、総合的に満足いく授業を受講生に提供できたことから、回回の講義に向けて改善するべき点はないものとする。	特になし
25	24665014	サステナブル資源科学(国際コース)	23	19	83	4.41	本講義はE科目として、本講義の国際コースの受講生（23名）とE科目として日本人を主体とした受講生（15名）によって実施された。同じ講義に出席しているにもかかわらず、本講義の受講生からの評価は高くなっている。また、同様の呼びかけを行っているにもかかわらず、本講義受講生からのアンケート回答率も高い。本講義には様々な分野からの受講生が参加していることを考えると、国際コースの講義としては、ほぼ満足できる授業内容であったと判断される。	国際コースに対しては、本講義は十分高い評価を受けており、今後ともこのレベルを維持することを目指す。	
26	24665016	生物機能分子化学Ⅰ(国際コース)	13	7	54	4.28	概ね高評価、双方性に若干の難あり	講義の双方性に改善を図る	
27	24665017	バイオリソース特論(国際コース)	13	7	54	4.47	全ての項目で4.3以上の評価であったが、回収率が53.8%と悪かった。	次年度以降、講義最終回に評価を入力するよう指示して、回収率向上に努める。	
27	24665018	食品品質学特論(国際コース)	17	10	59	4.67	回収率が58.8%と若干低かったが、評価としてはいずれも平均を上回っていた。ただ、自由記述として、いくつかの講義で十分に深く理解できない箇所があったとの記載があったが、複数の教育コースを横断している講義のため、受講学生の自主学習に期待するところである。	前述の通り、いずれも平均値を上回っていたことから、基本的には講義内容は変える必要はないと思われるが、よりわかりやすく説明できるよう心がける。	特になし。
28	24661109	農業情報学特論	10	4	40	4.70	概ね評価は良好であったが、アンケート回答率が40%であったため、回答率の向上を図る必要がある。また、他の項目と比較して、授業の難易度の評価が低い結果であった。	回答率が40%と低かったものの全体的に評価は概ね良好であった。次年度以降は回答率の向上を図るとともに、講義の難易度については受講者の専門や卒論・修論内容も加味して適切な内容を再考する。	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。

令和6年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	24660003	総合的病害虫管理学	40	12	30	4.53	本年度は、教員2名の入れ替えがありつつ、昨年度と同様に計6名の教員によるオムニバス形式で実施した。アンケート回収率は、授業内及びMoodleメッセージにてアナウンスしたものの、全体回収率より低い30%となった。 質問10項目のうち2項目で科目群平均と同値、8項目で科目群平均より高い値を示し、昨年度よりも良好で全般的に高い評価を得ることができたと考える。	アンケート回収率を上げることができるよう、授業時間内に回答時間を設けるなどの対応をしたい。 授業構成・内容への満足度は高いと判断されるので、引き続き双方向性に留意しながら、主体的学修を促せるよう努めたい。	特になし。
2	24660004	農業生物学特論（E科目）	46	16	35	4.42	6名の教員によるオムニバス形式の英語による講義（E科目）で、全体的に平均的かやや高い評価だった。評価の提出率はあまり高くなかった。教員の説明のわかりやすさ、より深く学びたくなる、が特に高く評価された。目標の提示が平均をわずかに下回った。	留学生と比較して同じ評価項目についての日本人学生の評価がやや低いのは、一部の学生に英語が伝わりにくいか記憶に残りにくいためと考えられる。目標が記憶に残りやすいよう提示方法を工夫したい。	
3	24660008	ゲノムサイエンスとエビジェネティクス	20	9	45	4.68	全ての質問で科目群平均を大きく上まわっており、十分な学習効果が認められた。	最新の話題や研究も取り入れつつ、より一層学生の学習意欲を喚起する内容に努める。	
4	24660011	昆虫病理学特論	26	12	46	4.25	アンケート回収率は46.2%と、全体回収率よりはやや低かったものの、昨年度より上昇した。 評価については、ほぼ全般の質問項目で科目群平均と同値かやや下回る結果となった。英文専門書の読解とレポート作成・提出としたため、特に双方向性についての評価が低くなった。	授業構成、特に教材や方法を見直し、総合的な満足度向上に努めたい。	特になし。
5	24660016	植物環境調節学特論	14	6	43	4.66	アンケートの回答内容については概ね高く、いずれの「共通項目」も科目群平均を上回っているものの、アンケートの回答率が例年と同様に低く、授業への評価が高い受講生のみが回答している、ということ想定すると、現在は必ずしも十分な状況ではないと考えられる。アンケートへの回答を促すことはもちろん、このような活動に積極的に取り組むほどに魅力ある授業を展開することが求められるであろう。	例年に引き続き、授業の質を総合的に高めることが必要で、とくに当該授業科目が継続的に重要視している項目「共-3 主体的学修授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」について高い評価を得よう努める。併せて、アンケートの回答率を高める方法を検討する。	とくにない。
6	24660103	動物・水産先端科学論（E科目）	26	11	42	4.26	Overall the course ran well. Since the course has also been open to undergrad students., each undergrad student contacted me personally to get permission to join this course. It was very time-consuming to respond to each student. Moreover, I did not find their names in the Campusmate J to submit their grades.	I would like to request the students' office to manage undergrad students to enroll in the system by themselves and create a system to submit their grades.	
7	24660104	生体制御システム学特論	10	6	60	4.64	登録者10名のうち6名（60%）が回答し、全体集計率の48%より比較的高い回答率ではあったが、授業内にアンケート実施を失念しており回答率が低くなった。評価に関しては、全てのアンケート項目で4.5以上となり平均点を上回り、大きな問題はなかった。特に自己学習、満足度、該当科目をより深く学習したいという項目は高得点となり授業目標は達成できたと考える。一方で、難易度や双方向性に関して4.5と少し低く評価された。	すべてのアンケート項目で4.5以上であったことから、基本的には今の講義のやり方を継続していくことが大事であると考ええる。特に、学習意欲や満足度の点は十分であるので、授業中以外の時間にも学生が主体的に学習できるような足掛かりを、できるだけ授業中に提供していきたい。	
8	24660105	動物形態形成学特論	12	6	50	3.96	登録者12名中6名から回答を得た（回収率50%）。 評価結果を分析すると、シラバスの学習目標の明確さ、教員の授業準備、授業の難易度の適切さ、教員の熱意など、基本的な授業運営に関する項目では良好であった。一方、学生と教員の双方向性、自主的学習の触発、学修意欲の向上については、科目群平均を下回る結果となった。全体的な満足度は4.0/5.0であり、決して低い評価ではないものの、改善の余地はある。	学生と教員の双方向性を高めるため、講義中に気軽に質問できる雰囲気作りを心がけ、特に各トピックの区切りでは必ず質問時間を設ける。また、講義中に簡単な問いかけを増やし、学生が自然に発言できる機会を作る。2名の教員で担当している特性を活かし、学期開始前に詳細な授業計画を立案し、各回の講義内容の関連性を明確にする。また、学生からのフィードバックを適宜収集し、必要に応じて授業方法の調整を行う。これらの改善により、学生の主体的な学びを促進し、より充実した教育効果の達成を目指す。	
9	24660107	筋肉・食肉科学特論	21	6	29	4.38	本講義に関する学生からの評価は、教員の授業に対する姿勢（準備、説明のわかりやすさ、熱意など）について、科目群の平均以上であった。教員と学生間とのコミュニケーションを大事にし、講義内容について興味を持ってもらえるように努めた結果であると分析している。一方で、難易度は少し高かったこと、学習目標などが不明瞭であったことが伺えた。	来年度は主にシラバスを改訂して学習目標を明確にすることで、学生が講義内容を理解しやすいように努める。また、専門性を持った内容であってもホットなトピックと関連付けて説明することで、学生が難度を感じにくいよう工夫する。今年度は、初めて主担当となったため授業評価アンケートの周知を失念しており、回収率が悪いので、講義の質を確保するためにも学生へ周知をしっかりと行う。	

令和6年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
10	24660111	水圏生物資源環境学特論	28	6	21	3.92	全般的に科目群平均を下回っていたが、アンケート回収率が低く、判断が難しい。 アドバンス科目であり、講義で課題を出し、自ら調べるような場面が多いため、難易度等で低めの評価になったと考えている。 また、学部生が多いことも、難易度等での評価が下がる要因と分析している。	アンケート回収率の向上に対する策が必要。	
11	24661006	山地防災学特論	24	13	54	4.51	アンケート結果は概ね平均以上であったが、共60（学生との双方向性）および共3（主体的学修）の結果が共に4.2と低い結果であった。	今回の講義では今回のアンケート結果を踏まえ、学生との双方向性をより意識した講義を実施（質疑応答の時間を増やす等）することで、学生の主体的学修意欲を触発するようなものとした。	
12	24661007	林業経済学特論	10	6	60	4.68	全体的に科目群平均よりも高かったが、授業の難易度が4.0点であった。	研究分野が異なる他大学進学者にとって難しい内容だったと考えられるので、受講学生の構成を考え、適切な説明を加えるようにする。	
13	24661008	造林学特論	15	9	60	4.60	殆どの項目で、全体平均を大幅に上回ったものの、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」および「この授業内容についてより深く学びたいか」で平均をやや下回った。	興味喚起する方法について模索する必要がある。	
14	24661111	ポストハーベスト工学特論	22	10	46	4.26	学修デザイン等の項目に問題はなく、総合評価は4.6と良好な結果であった。 ネット講義を併用したため学生と教員とのやりとりについて課題が残った。	さらにデータ等をアップデートし、実課題解決に向けて学習意欲を促す工夫を行いたい。	
15	24661305	森林バイオマス科学	12	9	75	4.29	「教員は、授業に対して熱意を持っていた」が平均よりも低めとなっていたが、この項目は昨年度は5.0であった。担当教員は変更されていないが、講義内容や方法の一部に変更があった影響があった可能性はある。	より良い講義内容になるよう、講義内容を改善していきたい。	
16	24662011	国際農業開発学特論（E科目）	12	11	92	4.72	登録数は12名で回答者は11名であった。すべての評価項目で全科目平均より上であった。シラバスの学習目標は明確だった4.9、教員は、授業に十分準備して臨んでいた5.0であった一方で、授業の難易度は適切であったかや教員の説明はわかりやすかったについては4.5となった。学生らの発表やStataを用いた双方向のセッションを入れていたが、双方向については4.5となった。理由として挙げられるのは経済専攻でない学生が複数名おり、もう少し経済の基礎用語を教えてほしいという要望などもあったことから学生の就学度や理解度にばらつきがあった由来すると考えられる。全体的には、高い評価であったが、指摘のあった部分については改善を行いたいと考える。	来年度は経済の基礎用語の提供など工夫を行いたいと考えている。	
17	24663003	遺伝情報発現制御機構特論	23	10	44	4.43	評価項目の半分は平均得点を上回っていたため、特に問題名と分析している。	回収率が悪かったため、次回以降の講義では、学生により周知し、回答率の向上を目指す。	
18	24663005	海洋生命化学特論	26	14	54	4.40	シラバス、双方向性、主体的学習に関する評価が、科目平均より低かった。	科目平均より低かった評価項目に関して、評価が上がるように検討したい。	
19	24663111	植物遺伝子工学特論	18	11	61	4.61	主に最近の学術論文を題材にして資料を配布し、時折、対話を取り入れる形式で講義を進めた。総合的な授業の満足度は4.9と高く、2つの設問（共-221主体的学習）と設問9（共-221、学習意欲）以外の項目は、すべて4.6点以上で平均を上回っていた。	共-221:主体的学習と共-221:学習意欲の2点については、専門外の学生（微生物や動物など植物以外を研究対象とする学生）が複数人受講していたため、評価を上げるのは難しい部分もあるが、改善の余地はあると考えた。深く学びたいと興味をかりたてるような話題と最新の情報を講義に盛り込み、次年度以降もさらに一層の充実を図りたい。	特になし
20	24663115	発酵化学特論	50	9	18	4.22	今回は授業を全て行った。そのことが一方的な授業であったと評価されたようだ。	次年度は双方向的な授業を行うことを試みたい。	
21	24663302	食品加工学特論	23	10	44	4.20	今回、講義内容を一新したので、伝えきれていない部分があり、少しわかりにくかった面もあったと思う。そのため、全体的に評価が低くなったと推察される。	メールでアンケートに回答するように依頼したが、48%と非常に低かった。最後の講義時間で通告しなかったためだと考えられる。最後の講義時間内に記入させるなど、何らかの対策を考えたいと思う。	

令和6年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
22	24665001	基礎統計学	28	25	89	4.32	Course Performance Summary: •Collection Rate: 89.3% (25/28), exceeding the university average of 48.7% (277/569). •Average Score: 4.32, slightly below the university average of 4.38. •Student Satisfaction: Generally high, with no "Strongly Disagree" responses across all questions. Minor concerns were expressed in categories 共-211, 共-60, 共-81, 共-221 (1 "Disagree" each) and 共-67 (2 "Disagree"). Overall satisfaction with the course (共-10) is positive: 3 "Neutral", 10 "Agree", and 12 "Strongly Agree". •Student Feedback: Two students requested more practice examples.	Slightly revise the syllabus to incorporate additional practice examples.	
23	24665006	農学生命科学	18	14	78	4.30	回答率も7割以上で、全ての項目に渡り4以上の評価であり、概して大きな問題はなかったように考える。自由記述欄のコメント（The lecture highlighted recent advances related to the topic, making it both engaging and interesting. I appreciated how these developments were integrated into the discussion, as they provided valuable context and relevance to the subject matter.）とあるように、主体的に学習する者にとっては、興味を抱かせ、学習意欲を高められたと考える。他方、「わかりやすさ」の項目（共-67）では平均より低いことが改善すべき項目と考えた。	上記の「分かりやすさ」については、本講義の内容が「分子遺伝学の基礎」と「生化学の基礎」、そして「バイオインフォマティクスへの展開」で構成されているため、少なくとも基礎部分を修学している学生の受講が望ましいが、受講している留学生の多くがこれらの基礎知識が欠落している。今回も導入したが、事前学習としての英語ビデオ等の視聴による事前学習を徹底させたい。	
24	24665007	フードサイエンス・フードシステム論	25	22	88	4.17	全体的には4.0なので、E科目にしては良かった方だと考えます。しかし、双方向性が、オムニバス授業ですのでそれぞれの先生のスタイルなので、相談してみようと思います。私は授業中の質問の量を多くしています、受講者は外国人なので、コミュニケーションは取りやすいです。たくさん答えてくれます。	各先生に、双方向性については相談します。	授業中の雰囲気はとても良いです。
25	24665010	農業生物学特論(国際コース)	20	14	70	4.47	6名の教員によるオムニバス形式の英語による講義（国際コース）で、全体的に平均より評価が高かった。出席率も評価の提出率も高く、学生のコミットメントの高さが反映されている。教員の目標の提示、わかりやすさ、講義準備が特に高く評価された。	来年度以降も現状を維持したい。	
26	24660006	作物学特論	13	4	31	4.80	全てのアンケート項目について科目群平均よりも高い評価となった。特に双方向性に関する項目に関しては、科目群平均よりも大幅に高く、独自に教科書を印刷し、教科書に関する質問を促し、それに対する回答も準備することで、部分的にはアクティブラーニングの形で講義を進めることができたことが理由だと考えられた。	来年度以降も学生の所属やバックグラウンドを踏まえて、質問内容や課題内容などを準備し、少人数であればできるだけアクティブラーニングを取り入れながら講義を進めていく予定である。	
27	24660009	昆虫多様性学	19	6	32	4.72	すべての項目において、担当講義の評価は「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」以外の項目は科目群平均を上回っていた。とくに「この授業内容についてより深く学びたいか」の評価は科目群平均4.3に対して5.0、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」の評価は科目群平均4.5に対して4.8であり、「教員の説明はわかりやすかった」の評価は科目群平均4.4に対して4.8であり、評価が特に高かった。	授業において講義すべき内容が多かったために、双方向性の授業とすべき部分を犠牲にしてしまったため、次の講義では、内容を減らして、双方向性の授業となるように、学生の自主的なプレゼンテーションを取り入れる。	
28	24660012	天敵利用と環境保全型農業	11	5	46	4.78	ほとんどすべての項目で平均を上回り、専門性が高く様々なテーマを包括した教材を準備したためと、双方向性とわかりやすい説明を意識したため、手ごたえを感じた様子がうかがえた。授業の準備についてのみ、やや平均を下回った。テーマによって準備が十分でなかったかもしれない。	次回からは、多岐にわたる内容についてまんべんなく準備を行い、フィードバックを心掛ける。リマインドメールを早めに送り、準備を促すなども工夫したい。	
29	24661005	森林計画学特論	15	5	33	4.76	いずれの評価項目も科目群平均よりも大きい値となっていたことは評価できる。（差0.6 1項目、差0.5 2項目、差0.3 5項目、差0.2 2項目）	今後とも双方向性を維持していく。ただし、学生同士の議論の活発化については改善していきたい。	

令和6年度大学院授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
30	24663307	食品工学特論	15	8	53	4.46	ほぼ全ての項目において科目平均とほぼ同等の評価であったため、大学院講義としては十分に達成できていると考えられる。	来年も引き続き講義の準備等行っていきたい。	
31	24665003	生物資源論	26	20	77	4.29	学生と教員とのやりとりには双方向性、教員の説明はわかりやすかった、教員は、授業に対して熱意を持っていた、授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した、この授業内容についてより深く学びたいかの項目において平均値を若干下回り、総合的な満足度も若干平均値を下回った。	4名の教員によるオムニバス形式であるため各教員の評価は不明であるが、今回の授業評価の内容を共有し、次回の講義に生かしたい。	
32	24665004	地水環境論	19	15	79	4.31	E科目であるものの、全般的に講義内容が受講生に伝わったものと判断できる。さらに、授業内容についてより深く学びたいとの項目について、比較的高い点数であったことから、各講師が学生の好奇心を上手く引き出せたと判断できる。一方で、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」の項目が平均点より低かったことから、受講生の満足度を向上させられるよう、資料の工夫を行うなどの改善が求められる。	「総合的に考えて、現在この授業に満足している」の項目が平均点より低かったことから、受講生の満足度を向上させられるよう、資料の工夫と小テストやレポートの工夫を行う。	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。